

「スマートライフ推進協創プロジェクト」 第1回推進会議の概要について

「スマートライフ推進協創プロジェクト」の平成 25 年度第1回推進会議（みえスマートライフ推進協議会 第4回企画・運営委員会）を平成 25 年8月6日（火）に開催しました。

会議の概要は、以下のとおりです。

「スマートライフ推進協創プロジェクト」委員

※敬称略、カッコ書は役職

＜委員長＞

並河 良一（中京大学総合政策学部教授（兼）
大学院経済学研究科教授）

＜副委員長＞

坂内 正明（三重大学教授 スマートキャンパス部門長）

＜委員＞

生駒 芳子（ファッション・ジャーナリスト）
小西 千晶（株式会社東芝 スマートコミュニティプロジェクト第4部参事）

坂井 稔（富士通株式会社 三重支店長）

※坂井委員はご欠席（代理：白根東海支社シニアマネージャー）

設楽 哲（一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）理事）

樋田 直也（本田技研工業株式会社 事業企画統括部 スマートコミュニティ企画室長 主任技師）

林 宏行（大和ハウス工業株式会社 本社環境エネルギー事業部 副事業部長 本店環境エネルギー事業部 事業部長）

※林委員はご欠席

半田 敬信（三菱化学株式会社 情報電子OPV 事業推進室建築デバイス部長）

森島 正幸（百五銀行 営業渉外部長）

＜推進会議の進行概要＞

会議の進行概要は以下のとおり

開会 13:30

議題

- (1)スマートライフ推進協創プロジェクトにおける平成24年度の実績概要
- (2)スマートライフ推進協創プロジェクトにおける委員からの意見及び対応状況
- (3)スマートライフ推進協創プロジェクトにおける平成25年度取組概要及び課題

閉会 15:30



（事務局からの説明）

事務局より、スマートライフ推進協創プロジェクトにおける平成24年度の実績概要及び昨年度委員からいただいた意見の対応状況について説明しました。

また、平成25年度の実績概要及び課題についても説明しました。

（プロジェクト推進についての意見交換）

続いて、並河委員長の進行によりプロジェクトの推進に関する意見交換を行いました。

※委員からの主な意見

- スマートライフの推進のためには、地域の方が何を必要とするか把握するとともに、民間企業だけでなく、起業家、NPO、地域住民も巻き込むことが必要である。
- ビジネスにつなげられるものは多くあろうが、民間企業の自発的な取組に全面的に期待することは困難な面はある。
- 地産地消型、例えばバイオマス発電は地元の木材を活用し、発電設備を地元で製造し、地元へ供給するような仕組みが望ましい。
- 東北では中小企業が集まって風力発電事業を運営している事例があるが、三重県においてもこのような成果を出していくことが重要である。
- メガソーラー事業は地域へのメリットが少ないと言われるが、三重県の取組は地域活性化までつなげようとしている点が評価できる。
- スマート、グリーン、バイオなど目的は同じだろうが、いろいろな言葉が混在しており、整理した方がいい。
- 事業実施に伴うリスクは県が担保してはいけない。民間事業者がF S調査の中でリスクをどう担保することを考えるべき。
- バイオリファイナリーを四日市コンビナートで成功すれば、四日市の産業創生になり、ブランディングが生まれ、海外からの視察も期待できる。
- 桑名プロジェクト検討会、熊野プロジェクト検討会でEV、PHVなどの電動車両を実際に試してみるのであれば本田技研工業（株）が協力する。
- 桑名プロジェクト検討会の医療・子育て情報事業については、ICT特にマイナンバー制度との連携を進めていくことが今後重要である。



次回の開催予定

次回の推進会議については、平成 26 年 1 月下旬から 2 月上旬に行う予定です。